

# あいち病害虫情報 最新情報

令和2年8月17日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除室

## 8月下旬は、気温がかなり高くなる見込み

名古屋地方气象台8月13日発表の1か月予報によれば、向こう1か月の気温は高く、特に期間の前半（8月後半）は、気温がかなり高くなる見込みです。降水量は、平年並か少ない見込みです。

ほ場での病害虫の発生状況をよく観察し、適期防除を心がけましょう。また、作業は朝夕の涼しい時間帯に行うなど、健康管理に留意しましょう。

## イネ紋枯病

7月下旬の巡回調査におけるイネ紋枯病の発生量は、過去10年で最も多く、県内各地で確認されています。向こう1か月の気温は高く、本病の発生に好適な気象条件が見込まれており、急激に上位葉に伸展する可能性があります。これから出穂期を迎える普通期栽培品種では、ほ場内を観察し、発生状況に応じて、7月31日発表の「イネ紋枯病情報第1号」を参考に防除しましょう。

## イネ白葉枯病

尾張地方の一部地域で白葉枯病が発生しています。今後、台風などによる強風と大雨や冠水によって発生が拡大するおそれがあります。浸冠水しやすい水田では、用排水路の整備を行いましょ。

今年、白葉枯病が発生したほ場では、次作へ向けた対策を行いましょ。一次伝染源となるサヤヌカグサなどイネ科畦畔雑草の除草、稲刈り後の被害ワラの除去、次年度の育苗時にプロベナゾールやチアジニルまたはイソチアニルを含む箱施薬（Dr. オリゼフェルテラ粒剤、ブイゲットフェルテラ粒剤、ルーチンエキスパート箱粒剤など）による防除を行いましょ。

## 斑点米カメムシ類

一部地域の予察灯でイネカメムシが多数捕獲されています。また、8月上旬の巡回調査におけるすくい取り調査では、水田内、畦畔雑草ともにほぼ平年並の発生量ですが、一部ほ場でクモヘリカメムシ、イネカメムシの多発生が確認されています。

あいちのかおりSBLなどの普通期栽培品種は、これから出穂期を迎えます。畦畔やほ場内を観察し、発生状況に応じて適宜防除しましょ。防除対策については、7月16日発表の「令和2年病害虫発生予察注意報第5号」を参考にしてください。

## ウンカ類

トビイロウンカは、8月上旬の本田すくい取り調査において西三河地域、東三河地域で捕獲され、過去10年で最も多くなっています。本日付で「令和2年病害虫発生予察注意報第7号」を発表しましたので、防除対策等参考にしてください。日本植物防疫協会提供の気象再解析データによる飛来解析によれば、愛知県には6月初旬から7月中旬にかけて複数回飛来した可能性があります。ほ場全体を注意して見回り、発生を確認したら収穫前日数に留意して早急に防除しましょ。

セジロウンカの水田内での発生量はやや多い状況です。ほ場での発生状況に注意しましょ。

## コブノメイガ

7月下旬の巡回調査において、県内各地の水田でコブノメイガによる被害や幼虫の寄生

を確認しています。止葉における被害が多いときは収量に影響する可能性があるため、すでにコブノメイガによる被害を確認している場合は、7月16日発表の「コブノメイガ情報第1号」を参考に防除をしましょう。特に、あいちのかおりSBLなど9月中旬以降に収穫期となる品種では、次世代により被害が拡大する恐れがあり注意が必要です。

## ダイズのオオタバコガ、ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ

長梅雨の影響でダイズのは種作業が全体的に遅れており、8月上旬の巡回調査時点では種前または発芽前のほ場も多く、まだハスモンヨトウ、オオタバコガの寄生は確認されていません。西尾市、豊田市に設置したフェロモントラップにおけるオオタバコガの誘殺数は平年よりやや少ない状況です。また、ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は、7月上旬に一部地域で一時的に急増したもののその後は平年並に推移しています。

しかし、今後、高温が予想されることから、発生量が増えるおそれがありますので、ほ場内を観察し、幼虫の発生やハスモンヨトウによる白変葉を確認したら速やかに防除をしましょう。

近年、シロイチモジヨトウによるダイズへの加害が見られるようになりました。今後、発生が増えることが予想されるため、発生状況に注意しましょう。

## 果樹の病害

7月下旬の巡回調査において、モモせん孔細菌病の発生ほ場率が過去10年と比較して3番目に高い状況でした。本日発表の「モモせん孔細菌病情報第1号」を参考に、枝病斑の除去や農薬による秋季防除を実施し、次作への伝染源量を減らしましょう。

ナシ黒星病の発生ほ場では、来年の伝染源にならないよう被害落葉の処理を徹底し、収穫後の防除をしましょう。

7月下旬の巡回調査において、ブドウべと病の発病葉率はやや多い状況でした。そのため、薬剤防除や発病葉をほ場外に持ち出して土中に埋没するなど防除を徹底しましょう。

## 果樹の害虫

ナシヒメシンクイのフェロモントラップにおける誘殺数は、尾張地域でやや多い状況です。ナシでは果実が熟してくると成虫の飛来が多くなります。収穫前日数に注意して薬剤防除しましょう。

チャバネアオカメムシのフェロモントラップの誘殺数は豊田市でやや多く、幸田町では平年並、新城市と豊川市ではやや少ない状況です。

また、豊橋市と新城市に設置した果樹カメムシ類の予察灯における誘殺数は、新城市のクサギカメムシが急増し、やや多い状況ですが、その他のカメムシ類はおおよそ平年並の状況が続いています。今年は果樹カメムシ類の餌となるスギ・ヒノキ球果の量は平年並であるため、新世代成虫の発生量も平年並と予測しています。しかし、7月下旬に実施したヒノキ球果におけるカメムシ類の口針鞘（吸汁した跡）数による離脱時期予測によれば、早いところでは既にヒノキ林から離脱し、成虫の果樹園への飛来が始まっていると考えられるので、ほ場での発生状況に注意してください。

なお、県内各地におけるヒノキ林からの離脱時期等は、7月31日発表の「果樹カメムシ類情報第2号」を参照してください。また、スギ・ヒノキ林の近くの果樹園では、台風通過などで突発的に飛来が急増することがあるので、注意してください。

カンキツほ場に設置したチャノキイロアザミウマの粘着トラップにおける誘殺数は、南知多町、蒲郡市ともに6月を中心にやや多い状況でしたが、現在はやや少ない状況です。最新の気象データから予測した成虫発生ピークは表のとおりです。成虫発生ピークが防除適期なので、表を参考に防除を実施しましょう。

表 チャノキイロアザミウマの成虫発生ピーク予測日

	愛西	南知多	名古屋	大府	豊田	岡崎	蒲郡	豊橋	新城	伊良湖	稲武※
第5世代	8/15	8/13	8/9	8/9	8/14	8/15	8/14	8/13	8/19	8/12	8/22
第6世代	9/1	8/31	8/26	8/27	9/2	9/2	9/1	8/31	9/6	8/30	9/16
第7世代	9/22	9/22	9/14	9/14	9/23	9/24	9/21	9/19	9/28	9/19	-

※稲武はそれぞれ第4世代、第5世代のピーク日。

## 野菜・花き類はチョウ目害虫に注意！

オオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺数は、豊橋市と田原市、南知多町のキャベツほ場、豊川市のキクほ場でやや多い状況です。シロイチモジヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は、田原市のキャベツほ場と長久手市でやや多い状況です。コナガのフェロモントラップにおける誘殺数は、おおむね平年並です。ほ場や育苗ほをよく観察し、早期発見、早期防除に努めましょう。

野菜ほ場に設置したハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は、おおむね平年並ですが、長久手市でやや多い状況です。例年、8月から9月にかけて発生量が増加します。ほ場周辺のサトイモやダイズほ場の被害状況を参考に、ほ場や育苗ほでの発生に注意して適宜防除しましょう。

ハイマダラノメイガは、発芽、定植直後に加害されると、被害が大きくなります。は種から定植時に薬剤を処理するなどして、初期被害を防ぎましょう。

育苗ほでは防虫ネットを設置してチョウ目害虫の飛来を防ぎましょう。

## イチゴ炭疽病に注意！

7月下旬の巡回調査でイチゴ炭疽病の発生量が多い状況でした。今後も気温が高いと予想されており、注意が必要です。発生を確認したら、発病株は速やかに処分しましょう。発病株の周辺にある株は病徴が無くても同様に処分しましょう。親株で発生があった場合は、その親株から発生しているランナー、子株も処分しましょう。7月31日発表の「令和2年度病害虫発生予察注意報第6号」も参考にしてください。

## イチゴのハダニ類

イチゴの育苗ほでハダニ類の発生量が多い地域があります。本ほでのハダニ類を抑えるには、育苗段階での防除を徹底することが重要です。薬剤抵抗性の発達を防ぐため、気門封鎖型農薬などを組み合わせて防除しましょう。本ほにハダニ類を持ち込まないように、定植直前には必ず防除を実施しましょう。炭酸ガス処理（二酸化炭素くん蒸剤）をした場合、処理後の苗をハダニ類の発生した育苗ほに戻すと再度ハダニ類が寄生してしまうので、速やかに定植しましょう。

## トマトのコナジラミ類

トマト黄化葉巻病の病原ウイルス（TYLCV）を媒介するタバココナジラミ、トマト黄化病の病原ウイルス（ToCV）を媒介するタバココナジラミ及びオンシツコナジラミの本ほへの侵入を防ぐために、定植前に施設開口部に防虫ネット（目合 0.4mm以下）を設置するとともに、施設内での発生に注意して、早期防除に努めましょう。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/>）を参照してください。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室  
TEL 0561-62-0085 内線471 FAX 0561-63-7820